

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 22-002

PDCA	事務事業名	学校体育施設開放事業	部課等名	健康子ども部 スポーツ課 振興担当	担当 内線等	小林 421	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 4. 生涯スポーツ・レクリエーション					
		単位施策： (1) 生涯スポーツの実現					
	根拠法令等	半田市学校体育施設開放規則					
	対象・目的	市内に在住・在勤・在学する方で構成され、責任者として成人を含む10人以上の団体を対象に、学校教育に支障のない範囲で学校体育施設を開放し、市民に身近なスポーツ活動の場を提供する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・総合型地域スポーツクラブ及び市民登録団体に使用許可 ・学校活動以外の日時を使用できるよう調整 ・団体が活動できるよう設備や備品の調整					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①体育館利用可能回数		10,220	9,852	6,461	回
		②運動場利用可能回数		4,892	4,525	3,054	回
		③夜間照明施設利用可能回数		1,420	1,286	987	回
		事業費		4,728	4,401	4,463	千円
		人件費		4,197	4,120	4,357	千円
		総事業費		8,925	8,521	8,820	千円
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位
	学校体育施設開放の利用可能回数1回当たりの経費		540	544	840	円/回	
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①体育館稼働率	実績値	75.3	74.1	79.5	%
			目標値	83.0	83.0	83.6	
		②運動場稼働率	実績値	55.6	54.4	66.7	%
			目標値	64.0	64.0	64.9	
③夜間照明施設稼働率		実績値	55.6	54.5	46.2	%	
		目標値	65.2	65.2	65.2		
C 課題の整理		観点別評価	必要性		有効性		効率性
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	D					
		各施設とも前年度に比べ、新型コロナウイルスの影響により利用可能回数が減少した。体育館や運動場について実績値は上がっているが、実績回数は大きく変わらなかったため、必然的に稼働率が高くなったと考えられる。夜間照明施設については例年に比べ実績回数が少なく、前年より稼働率が減少した。また、小中学校の長期休暇では平日に午前と午後の枠が増え、利用可能回数が大きく増加するが、実績回数は変わらないため、稼働率が低くなっている。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
令和3年度の目標		成果指標			目標値	単位	
		①体育館稼働率			83.7	%	
		②運動場稼働率			64.8	%	
		③夜間照明施設稼働率			65.2	%	